

令和7年度「おおだ未来☆夢ランド」の提言から

令和8年1月26日(月)

【テーマ】「子どもたちの国際交流について」

大田市と姉妹都市韓国・大田(テジョン)廣域市はコロナ禍前までは、中学生の交流を行っていた。今後、交流の再開を望んでいる。また、大田市としてベトナム：ホイアン市、台湾：黄金博物館、ポーランド：タルノフスキェ・グルィ鉱山遺跡へ訪問し交流を始めている。昨年からは、市内温泉津小学校が台湾新北市瓜山国民小学校との交流をはじめた。温泉津小の子どもたちから温泉津の町について、台湾の子どもたちはそれぞれ得意なことや好きなこと、夢などを紹介しあった。今年度は大田小学校がポーランドの子どもたちと交流を始めている。また、11月の大田市中学校拡大生徒会では、「わたしたちの考える国際交流」をテーマに、中学生が考える交流内容や方法について提案協議を行った。

さらに、令和9年度には、世界遺産登録20周年・銀山発見500年となり、石見銀山によってつながる上記鉱山遺跡都市等との「国際子どもサミット」を計画している。このような現状を踏まえ、今後、海外との交流・連携をどのようにすすめていけばよいか、多面的な視点をもって活動について推進委員から意見や提言をいただき、今後の大田市としての国際教育推進に反映させたい。

【意見・提言】

国際交流の新たな展開・交流先の拡大

- **ボリビア・ポトシとの交流検討**
石見銀山と歴史的な関係が深いポトシ銀山との交流を提案。現地財団や日本大使館との人脈を活かし、協力可能
- **国内外への交流の拡張**
ビデオレターなどの活動を国内の学校にも広げ、交流の幅を拡大することを提案
- **子ども主体の交流先開拓**
行政が決めた交流先だけでなく、生徒自身が世界との共通点を見つけ交流相手を探す探求的活動を支援するべき
- **海外の歴史的都市との交流**
石見銀山の銀が影響を与えたヨーロッパの都市などを訪問し、歴史的つながりを学ぶ交流を提案

子どもの主体性・モチベーション向上

- **子どものモチベーションを中心に据える**
活動を認め、褒めることで自己肯定感を高めることの重要性を指摘
- **ウェルビーイングの視点**
楽しみながら学べる環境づくりが国際交流成功の鍵
- **子ども主体の活動運営**
大人が過度に計画するのではなく、子どもの主体性を尊重する支援型の関わり方を要望

学習としての国際交流（教育課程との連動）

- **総合学習・授業への組み込み**
国際交流を一時的なイベントではなく、「社会に開かれた教育課程」として日常の授業に取り入れるべき
- **鉱山学習の価値**
国際交流の基礎は郷土理解であり、鉱山学習の充実を評価
- **オンライン交流による日常化**
常時接続できる環境を整備し、交流を継続的な学習活動へ発展させる必要性

交流のテーマ・理念の深化

- **「鉱山」を軸とした地球規模の学び**
鉱山遺産は国境を越えたテーマであり、「地球人としてのアイデンティティ」を育てる教育へ発展可能
- **ユネスコ精神と世界遺産都市の使命**
世界遺産の理念である国際協調を踏まえ、平和を担う人材育成を目指すべき

文化理解・日本文化の発信

- 日本の学校文化（給食配膳・掃除など）は海外にとって興味深い
- 交流の中で紹介することで、日本文化への誇りを育てる機会になる

事業運営体制・地域連携

- 博物館など地域施設を公式パートナーとして位置づける
- 教育委員会だけでなく、地域全体で国際交流を支える体制を構築するべき

財源確保・事業継続

- 海外渡航費などの支援体制の確認
- ふるさと納税の活用
- 市民や企業も参加する資金調達モデルの構築

【総括】

1. 子ども主体の国際交流
2. 鉱山遺産を軸とした地球規模の学び
3. 交流の多層化（国内・オンライン・継続的活動）
4. 地域全体で支える持続可能な体制